



アメリカ便り

(宮沢吉弘君第1信)

(前略)

小生はアメリカの鉄道の保安行政調査というテーマで当地に来たわけであるが、従来より土建契約の問題に興味をもっており、此の点でいさゝか研究していた関係で、この面でも出来得る限り余暇をもつて視察する予定である。この仕事にはまだ手をつけていないが帰国後少しでも土木学会の方々の御役に立つようなことが出来るように努力するつもりで、出発前、三浦会長から特に当地の土木学会長ハサウェイ氏宛の紹介状を戴いた次第である。

丁度本日滝山氏(註: 国鉄輸送局設備課長)がワシントンに来たのを幸いとして、数日前からアポイントして昼食を御馳走になり、オフィスでお話を伺うことが出来たが、非常に御親切にして戴き、自分に出来ることなら何でも援助すると色々御紹介して下さいましたので、今後の契約問題の調査に大いに役立つことと思ふ。又ハサウェイ氏はお会いになつた方々をよく記憶されていて、三浦会長、山崎匡輔氏御夫妻、吉田先生、市浦、野瀬の両氏などに宜しく伝えてくれとのことであつた。

こちらへ来て感ずる事は、すべて物を見るのに、やはりその国の歴史的、社会的、経済的背景の相異をまず把握しなければならぬという点である。小生は、いきなり法律関係と取り組んでしまつたが、我々の理解しにくい面が多くあり、だんだん話している中に之等の背景の相違のための、必然的な差異を発見するといつたことが屢々で、我々の研究目的の壘にはまらない点が多くあるようである。このことは恐らく技術的に突込んでみても同じことが云えるのではないかと思ふが、技術面では歴史的背景は除かれるので或いは一寸異つてくるかもしれない。しかし、小生の語学力ではこれをノートするのに非常に困難を感じ、つくづく語学力の不足を痛感している。従つて精々努力するつもりであるが、成果については余り期待して下らない様をお願いする。

小生ワシントンで3週間を過し、フィラデルフィア、ニューヨーク、シカゴ、オマハ、デンヴァー、ソート

レークシティ、サンフランシスコ、ロスアンジェルスを經由して9月中旬帰国する予定である。丁度本日で滞華府2週間目に当り、政府関係機関、I. C. C. その他の鉄道保安行政関係の仕事に一段落つけた処で、あと1週間契約方面の勉強をしてこゝを去る予定である。(後略)

(July 3 1951 Washington にて)

新刊紹介

鉄道技術研究所編 発電水力の害虫 116頁、写真13、図28、表42、附録3頁、索引3頁 昭. 26.2.25 研友社発行 定価 150円

本書は水力発電所のコンクリート水路隧道に附着繁殖し、発電能力を時には10%も低下させる昆蟲、"シマトビケラ"に関する昭和18年より昭和24年まで6ケ年にわたる8氏の研究成果を収録したもの。その昆蟲学的研究は京都大学大津臨湖実験所長理学博士上野益三、奈良女子大学教授理学博士津田松苗、資源科学研究所眞理学博士岡田彌一郎及び同研究所員朝比奈正二郎の各氏が担当し、その工学的防除研究を日本発送電株式会社員山口直樹、国鉄千手発電所長島田和夫、国鉄技術研究所員村上正太郎及び同研究所員常山沢太郎の各氏が担当している。なお本研究は昭和22年以降3年間常山氏を主任研究員とし、上野、津田、朝比奈の各氏が協同研究員として文部省科学試験研究費の配分をうけた。"シマトビケラ"に関するおそらく世界における最初の研究成書であると思われる。目次によつて内容を紹介します

1. 発電水力の害虫概説(津田)
2. 水棲昆蟲による被害状況(島田及び山口)
3. 千手発電所におけるシマトビケラの種類(津田)
4. 千手発電所におけるシマトビケラの実態調査(上野)
5. 他の発電水路との比較(上野)
6. シマトビケラ的生活史及び習性(朝比奈)
7. トンネル清掃とその効果(島田)
8. 塗料効果試験(常山)
9. コンクリート壁面の壁面の粗度効果試験(常山、朝比奈)
10. 電圧効果試験(村上)
11. 誘蛾燈効果試験(上野)
12. 魚類放水効果試験(岡田)

附録 日本産シマトビケラ科の目録と検索表
(編集部)